



クリニックが主体となり、地域一体で電子処方箋のスムーズな運用を目指して準備を実施！

POINT: 電子処方箋を運用するなかで得た知見を、講演会で近隣施設に共有！

クリニック、近隣薬局、それぞれのシステムベンダーが協力し電子処方箋の運用を開始。得られた知見は講演会で共有するなど、地域単位で協力して電子処方箋をスムーズに運用できるように貢献。

【参考】山科武田ラクトクリニック（京都府）

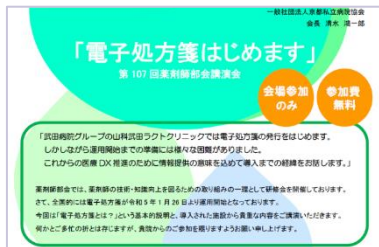
取り組み①

- ・ クリニック主導で、近隣の薬局を巻き込んで電子処方箋の準備を開始。システムベンダーの担当者も含め、電子処方箋の発行から薬局での電子処方箋に基づく調剤までを検証。

取り組み②

- ・ 電子処方箋を始めとする医療DXの推進を目指し、周辺施設向けの講演会を開催。
- ・ うまくいかなかったケースも含め、導入の検討から運用開始までの一連の流れや、業務の中で得られた知見を他の施設へ共有。

導入や運用開始に当たって最初は戸惑った点もありましたが、周りの施設の方々とも協力して進めています。過去の薬剤情報を正確に入手でき、診療に役立てています。



講演会の様子



クリニック内の様子



施設内では見やすい場所にマイナ受付のポスターを掲示



- 受付では次の3点を掲示
- ・ 処方箋の発行形態選択画面の表示
 - ・ 電子処方箋を発行可能な外来医師
 - ・ 調剤を受ける薬局が電子処方箋に対応しているかの確認



院長 田巻 俊一さん

地域一体で電子処方箋を推進することは、電子処方箋のスムーズな運用やより多くのメリット享受につながります。